

DOMESTIC
STYLE

【日本からの発信】

REPORT ● 木村和晴 (Kazuharu Kimura)
PHOTO ● 古矢 優 (Masaru Furiya)

エアロも一緒にモディファイとなるのだが、現在は特にフロント用の製品はノーリリースだ。やはり一番のハイライトであるセンター出しエキゾーストックへのこだわりが強く、他のパーツの開発に十分な手間隙を掛けるまでには至らなかったということだろう。すでにエアロに関しては多くのブランドからデザインが提案されている。こうしたなかで、埋め合わせ的な“とりあえず”のプロダクト化はできなかったのである。

その分、リヤスタイリングは自然とフレキシブルになった。すなわち、ノーマルルックでもマッチするようなデザインに仕上がっている。もっとも、完成されたリヤまわりのデザインとマッチするフロントエアロなどの開発も検討中というから今後の発展が楽しみである。ところで、最後に触れることになったがトミーカイラのインポートカーラインは「ROWEN（ロウエン）」というブランドで展開される。ロウエンの語源は“狼炎”。狼は一匹狼とも例えられるように、我が道を進み強く頭脳力に長け統率力がある。これは、トミーカイラのコンセプトに共感できるモチーフなのだそう。かつてのような独自性を今度はインポートカーでも切り開いてほしい。

トミーカイラが手掛ける
ロウエンに新作が登場

名門からの刺客。

新生トミーカイラでは、時流に合ったバリエーションに富む車種展開を行っている。そのなかで、インポートカーではアウディに白羽の矢を立てている。第1弾はアウディA4、そして第2弾がここに紹介するアウディTTだ。2011年のオートサロンにて初お披露目されたトミーカイラ流TTメイクは、なによりリビューにポイントを置いている。

“TTにはセンター出しエキゾーストパイプがマッチする”ということで、リヤバンパーをリメイク。テールパイプのレイアウト自体が変わるので、バンパーには専用のアンダーディフューザーが設けられた。ちょっとばかりキュート感さえ漂うコンパクトなモダンスポーツクーペには、確かに斬新なセンター出しがマッチするというのは、他車を見てもわかることだ。



90φ×2のセンター出しマフラーと、マットブラックで塗装された専用ディフューザー。アルミ素地のダクトメッシュは標準装備となる。

このようにノーマルとは一目瞭然で差別化が図られているわけだが、違和感なくスマートなルックスを実現することに成功している。しかし、セオリー通りにいけば“顔”ともなるフロント

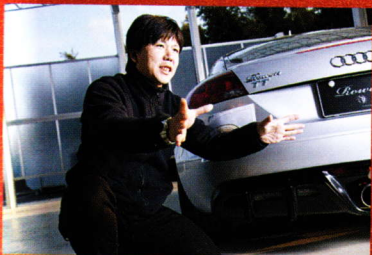
ROWEN TT

EQUIPMENT

リヤアンダースポイラー
ハイパフォーマンスエキゾーストシステム



INTERVIEW



トミーカイラジャパン 早川氏

整流効果も追求しました。

「アンダーディフューザーはファッション性と整流効果を追求し、ペイントカスタムを楽しんで頂けるよう見切りラインを盛り込むなどの工夫を施しています。今後もインポートカーではアウディを中心に、A5スポーツバック、A1、A6などをプロデュースする予定です。また、インテリアカスタムも本格始動し、オーダー受け付け中です」。